

【九州国立博物館】(計30件)

<絵画> (4件)

1 名称	春夏山水図屏風	品 質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鑑貞筆	員 数	6曲1隻
時 代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙：縦125.0cm 横352.4cm 表装（折り畳み時）：縦140.2cm 横62.8cm 厚9.5cm
作品概要	水辺の景観のなかに紅梅と涼をとる高士が描かれる。本図は春夏の情景を題材としており、当初は四季山水図屏風（6曲1双）の右隻であったと考えられる。画面に落款や印章はないが、幹が真っすぐ伸びる車輪松や、幹が弧を描いて伸び点描で葉を表わす竹の描写、全体的に整理された平明な構成から、筆者は唐招提寺総持坊に住した律僧で奈良法眼と呼ばれた鑑貞と考えられる。鑑貞は足利將軍家の御用絵師・周文に学ぶと伝えられ、この屏風絵は樹木や岩塊の表現に彼の周文学習の成果が具体的に示されている。本図は、室町時代に活躍した水墨画家・鑑貞の唯一の大画面絵画として貴重であり、また約10件のみが現存する室町水墨画の周文系山水図屏風の1つとして大きな意義をもつ。		
購入金額	69,300,000 円		



2 名称	花鳥図	品 質	絹本着色
作 者 等	山口宗季筆	員 数	1幅
時 代	琉球 第二尚氏時代・康熙45年(1706)	寸 法 等	本紙：縦105.8cm 横51.2cm 表装：縦192.6cm 横63.4cm 軸長：68.7cm
作品概要	太湖石と紅白の芍薬、花海棠などを描き、山鶴と小禽を配する。その作者は、花卉を隈取る描写や葉の表裏を塗り分ける彩色、奥行きを浅く設定する構図、落款印章などから、琉球の画家・山口宗季（呉師虔、1672-1743）と考えられる。山口宗季は琉球王国首里王府が所管した貝摺奉行所の絵師で、王府の命で福州に留学（1704-07）して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学んだ。本図は落款の年記から、山口宗季が王府の命により画法習得のため中国・福州（福建省）に滞在していた時期の制作であることが分かる。そのため本図は山口宗季の留学の成果を知るうえで重要であり、福建絵画に学んだ琉球絵画を理解するうえで大きな意義をもつ。		
購入金額	7,500,000 円		



3 名称	樁白鷹図	品 質	絹本着色
作 者 等	山口宗季筆	員 数	1幅
時 代	琉球 第二尚氏時代・康熙55年(1716)	寸 法 等	本紙：縦91.7cm 横37.3cm 表装：縦172.5cm 横48.0cm 軸長54.0cm
作品概要	枯木にとまる白鷹の背後に、樁と雪持ちの笹を描く。その表現は、白鷹の眼や喙の輪郭に金泥かと思われる絵具を用い、脚の凹凸を盛り上げて彩色するなど細やかな描写をもつ。その作者は、枯木の描法や形態、余白を生かす構成、落款印章などから、琉球の画家絵師・山口宗季（呉師虔、1672-1743）と考えられる。山口宗季は琉球王府の貝摺奉行所の絵師で、福州に留学して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学び、帰国後に絵師主取となって琉球画壇を代表する絵師として活躍した。近年新たに存在が確認された本図は、年記から彼が福州留学を終えて帰国してから9年後の制作と分かる。現存作品が極めて少ない山口宗季の画風展開を理解するうえで貴重な作品である。		
購入金額	9,350,000 円		



4 名称	布袋図	品 質	絹本着色
作 者 等	河村若芝筆 悦山道宗賛	員 数	1幅
時 代	江戸時代・貞享4年(1687)	寸 法 等	本紙：縦67.2cm 横32.5cm 表装：縦148.3cm 横45.1cm

作品概要	長崎で活躍した河村若芝(1630-1707)晩年の新出作品で、中国において聖人として尊ばれた唐末五代の僧、布袋を描く。若芝は、唐絵の創始者ともされる逸然性融(1601-68)に師事し、明代絵画の影響を受けた逸然の画風を継承しながら、さらに発展させて癖のある道釈人物画を描いた。本図の賛者、悦山道宗(1629-1709)は福建省出身の黄檗僧で、明暦3年(1657)に來日して隠元隆琦や木庵性瑠に師事し、萬福寺第7代住持を務めた。能書家としても知られ、本図のほかにも2点の若芝作品に着賛をしている。逸然を祖とする長崎唐絵は、鎖国下の長崎という特殊な条件のもとに生まれた新しい画風として以後の絵画史に多大な影響を及ぼした。本図はその代表的画家である河村若芝の新出の基準作としてきわめて貴重である。
購入金額	2,640,000 円

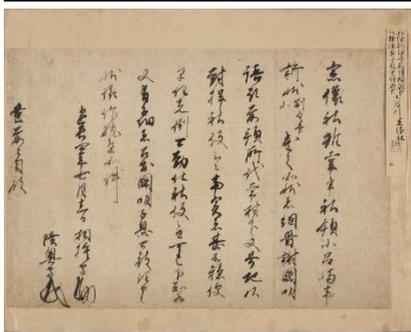


<書跡> (2件)

5 名称	重要美術品 手鑑「筆陳」	品質	紙本墨書・彩箋墨書
作者等		員数	1帖
時代	平安-江戸時代/明時代・(平安-江戸時代)12-17世紀/(明時代)16世紀	寸法等	縦40.4cm 横48.8cm 厚4.2cm
作品概要	江戸時代・宝永6年(1709)までに長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全41葉を収める手鑑。平安～江戸時代前期の宸翰・公家能書家の筆跡16葉、室町時代の連歌師筆跡4葉、鎌倉～安土桃山時代の武家文書・筆跡15葉、安土桃山～江戸時代前期の能書家筆跡4葉、伝張即之書1葉、中国・明の文人の書1葉からなる。主なものに伏見天皇宸筆の筑後切や書状、後柏原天皇宸翰書状、近衛信尹書状、伝後京極良経筆常知切、伝藤原公任筆砂子切、伝藤原定家筆儀式記録、足利尊氏・直義発給文書、織田信長黒印状、羽柴秀吉知行宛行状、本阿弥光悦書状、寧波の文人・方梅厓書などがある。種類・時代とも幅広く、良質の文書・筆跡が多く含まれる。		
購入金額	25,000,000 円		



6 名称	重要文化財 古文書手鑑	品質	紙本墨書・彩箋墨書
作者等		員数	1帖
時代	鎌倉-江戸時代・13-17世紀	寸法等	縦40.0cm 横50.0cm 厚5.5cm
作品概要	江戸時代・18世紀前半頃に長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全78葉を収める手鑑。鎌倉幕府発給文書を主とする鎌倉時代の古文書20通、南北朝～室町時代にかけて周防・長門を本拠とした守護・戦国大名大内氏の発給文書38通、室町～江戸時代前期の禅僧による墨蹟12葉、その他室町幕府発給文書1、連歌懐紙1、伝張即之書2、朝鮮通信使書1、連歌切1、古筆切1、詩懐紙1からなる。特に宗像社領小呂嶋をめぐって宋商人・謝国明の名が登場する関東御教書や、蒙古襲来に際して石見の御家人に防戦のため下向を命じた関東御教書は貴重である。38通の大内氏発給文書は南北朝時代から弘治3年(1557)の滅亡まで歴代当主を網羅し、各文書の資料的価値とともに稀少性が高い。		
購入金額	55,000,000 円		



<刀剣> (2件)

7 名称	刀 銘藤原鎮清	品質	鉄鍛造
作者等	藤原鎮清	員数	1口
時代	安土桃山時代・16世紀後半	寸法等	刃長74.9cm 反1.7cm
作品概要	鑄造、庵棟、中鋒。身幅やや広く鎧筋高い。重厚く、反浅めにつく。鍛は小板目よく約み、地沸つく。刃文は、総体に小乱となり、小互の目に小さな尖刃や小丁子風の刃が交じる。匂口締まりところに沸やや養つく。帽子は小さく乱れ込み、表は小丸、裏はやや尖って返る。茎は生、先刃上がり栗尻、鏝目勝手下り、目釘孔1つ開く。指表の目釘孔下の鎧地内に刀工銘を切る。本品は鍛よく匂口も明るく冴えて華やかで、刃文にたるみや崩れがみられず、しかも生茎であり、傑出した作行を誇る。研ぎ減りもなく、よく約んだ肌は精美な作風として知られる肥前刀にも一脈通ずるところであり、豊後刀を再評価する上で不可欠な作品である。		
購入金額	7,000,000 円		



8 名称	刀 銘伯耆守平朝臣正幸／文化四年卯二月七十五歳造	品 質	鉄鍛造
作者等	伯耆守平朝臣正幸	員 数	1口
時 代	江戸時代・文化4年(1807)	寸 法 等	刃長72.1cm 反2.0cm
作品概要	<p>鑄造、庵棟、中鋒やや伸びる。鑄高く反りやや深くつき、身幅広く重ね厚い。鍛は小板目 肌よく約み、地沸厚くつき、地景細かく入る。刃文は湾れに互の目交じり、匂口深く沸厚くつく。砂流し、金筋かかる。帽子は浅く乱れ、表は小丸に 返り、裏は焼詰める。茎は生、尻は先細って入山形、鑄目勝手上がり、目釘孔1つ開く。表裏ともに鑄筋を中心に楷書体に銘を刻む。正幸(1733-1818)は、通称伊地知次右衛門、安永元年(1772)より作刀を始め、初銘は祖父・父と同様正良と称し、薩摩藩のお抱え工となった。寛政元年(1789)には伯耆守を受領し、正良の名を嫡男に譲り、自らは正幸と改銘した。平肉豊かにつき、地刃、茎ともに健全で、正幸の代表的な作品として評価しうる。薩摩藩を代表する刀工の円熟期の在銘作である。薩摩藩主島津家伝来。</p>		
購入金額	8,000,000 円		



<陶磁> (3件)

9 名称	三彩壺	品 質	三彩陶
作者等	中国	員 数	1口
時 代	唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高19.2cm 口径11.5cm 胴径21.8cm
作品概要	<p>胴部は量感豊かに膨らみ、その上の頸部から口縁部にかけては短くも力強く湾曲する。このような器形をもつ壺は7世紀から8世紀半ばにかけての中国で作られた唐三彩に多くの例が知られており、「万年壺」とも呼ばれた。素地の表面に白い化粧土を薄く掛け、緑釉を地とする梅花文を胴部全体に散らす。梅花文の花弁はいわゆる蠟抜き技法によって周囲の緑釉をはじき、化粧土を露出させることで白く見せ、花の中心に置かれた一点の褐釉で蕊を表現する。傾斜の大きな器面では、花弁と花弁の隙間を緑釉と褐釉が筋状に流れ落ちてたがいにしみ、見どころのひとつになっている。</p>		
購入金額	44,275,000 円		



10 名称	重要文化財 法蓮鬘文有蓋壺	品 質	磁製法花
作者等		員 数	1合
時 代	中国 明時代・15-16世紀	寸 法 等	口径20.0cm 胴径34.6cm 底径21.9cm 総高47.5cm
作品概要	<p>轆轤成形により、肩から胴部が外側に大きく張り出し、腰部にかけて絞った器形とする。全体の地を濃い藍釉で塗り込め、イッチン描きで、胴部に蓮華文をあらわし、腰部には、波濤文を、その間に白鬘文をあらわす。肩には、内に霊芝雲文描いたラマ式蓮弁文形の窓枠を廻らし、その下に、内に八吉祥文を描いた雲文形の窓枠を配する。文様はすべて、青・白・紫の色釉で描き、一部に白檀塗りを施す。金属製の鈕が付いた鏤縁の蓋を伴う。昭和11年(1936)に旧国宝、昭和25年(1950)に重要文化財の指定を受けた。昭和9年4月5日大阪美術倶楽部で開催された藤田香雪齋の売立に出品された(『香雪齋藏品展覧図録』大阪美術倶楽部 昭和9年4月5日)。池戸宗三郎が落札し、以後は、富田熊作、戸田大三、蘭山順吉などの手を渡った。</p>		
購入金額	120,000,000 円		



11 名称	古染付葡萄棚水指	品 質	青花磁器
作者等	中国・景德鎮窯	員 数	1合
時 代	中国 明時代・17世紀前半	寸 法 等	総高19.2cm 高18.3cm(身のみ) 口径8.0×8.2cm 底径13.0×13.0cm
作品概要	中国・景德鎮の民窯で作られた古染付の水指。肩がなく、胴の中ほどから裾にかけて膨らんだ、丸みのある胴部を八角に面取りする。各八角の稜部分に呉須で柱をあらわし、胴の上部に交互に斜めに描いた棚組を配し、葡萄の蔓が絡んだ姿をあらわす。古染付は、明時代末期・天啓年間(1621-27)頃に、日本からの注文で作られた。轆轤成形ながら、意図的に歪みを加えたものや型造りのものがあり、それらは明らかに美濃焼の作行と共通する。虫喰いが見られるのも特徴である。「形物」と呼ばれる一定の器形・意匠を持つ製品があり、本作品は、その一つである「葡萄棚(文)水指」にあたる。通常共蓋があり、宝珠形と獅子形の鈕のものがあり、本作品には獅子鈕が付く。元徳島藩士で、日本汽船や日本郵船社の社長であった、近藤廉平(其日庵)の旧蔵品である。		
購入金額	49,500,000 円		



<漆工> (2件)

12 名称	漆皮箱	品 質	皮製漆塗
作者等	身は吉田立齋	員 数	1合
時 代	奈良時代(身は大正時代)・8世紀(身は20世紀)	寸 法 等	縦46.0cm 横40.0cm 高9.5cm
作品概要	皮製漆塗。被蓋造、丸隅の箱。やわらかく甲が盛り、蓋・身とも口縁を補強するために紐を廻らせている。素地は獣皮を木型に当てて成形したと考えられ、全面に目の粗い布を被(か)せて、紐にも布を張り重ねている。黒漆を塗ったのち透漆を塗り重ねている。東大寺旧蔵の伝をもつ漆皮箱の蓋と、後補の身である。現存する漆皮箱は、正倉院宝物と法隆寺献納宝物(重要文化財、東京国立博物館所蔵)などがあるが、民間にあるものはごくわずかで蓋のみとはいえ大変稀少である。また、大正年間に吉田立齋によって制作された身も、当時の模造技術の高さが見て取れる点、貴重な作例といえる。		
購入金額	19,800,000 円		



13 名称	花鳥堆朱盤	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1枚
時 代	中国 元-明時代・14世紀	寸 法 等	径30.5cm 高1.5cm
作品概要	木製漆塗。丸形の盤。厚手の口縁をもち、低い高台をそなえる。見込には、牡丹花と2羽の尾長鳥をあらわし、裏面立ち上がりには屈輪唐草文を廻らす。技法は彫漆で、黄漆地に朱漆を塗り重ねた層に、文様を細部に至るまで丁寧に彫り表わす。朱漆層には1層、黒漆層が見え、高台内は黒漆塗とする。一部、後補は認められるものの、状態は良好である。咲き誇る牡丹花を背景に、2羽の鳥が飛び交う双鳥様式の盤である。宋時代以来好まれた吉祥性あふれる意匠で、一尺ほどの盤面に破綻なく文様が配置されている。唐物漆器の中でも定番の作例であり、作行・状態とも大変優れた貴重な品である。		
購入金額	88,000,000 円		



<染織> (5件)

14 名称	裂帖「独楽帖」	品 質	絹など
作者等	裂：中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ 装丁：日本	頁 数	1帖
時 代	装丁：明治-大正時代 19-20世紀 裂：7-19世紀	寸 法 等	縦27.5cm 横19.8cm 高9.8cm
作品概要	千家御用の袋師・土田家蒐集と伝わる裂を貼り集めた折本仕立の裂帖。近代数寄者として知られる益田孝（鈍翁、1848-1938）の妾、益田多喜子（紫明庵）旧蔵の裂帖。千家御用の袋師蒐集品にふさわしく、蜀江錦や騰繡染めなどの上代裂から、16世紀ごろまでの古裂の名品が含まれる。所収裂は「富田」、「鶏頭」、「角之倉」、「嵯峨桐」など号を冠する名物が揃う。13世紀頃まで製作時期が上る「大燈金襴」や「二人静」も含まれており、大変貴重な手鑑。装丁も美しく、鑑賞を目的として作られた裂帖の好例である。また付属の目録には図入りで裂の名称とそれぞれの解説が記されており史料性も高い。		
購入金額	8,800,000 円		



15 名称	裂帖「古裂鑑」	品 質	絹など
作者等	裂：中国、日本、インド、ヨーロッパ 装丁：日本	頁 数	1帖
時 代	装丁：昭和時代 20世紀 裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦24.4cm 横19.2cm 高4.3cm
作品概要	金紗や印金などの表装裂に用いられたと考えられる裂が比較的多く含まれる折本仕立の裂帖。一般的な裂手鑑よりも日本で産した古裂が多く含まれていて、染織史研究上貴重な作例。日本産の裂の中には、室町頃まで遡ると考えられる唐織の古い例や、江戸初期の腰巻裂、江戸中期の小袖裂、東京大学史料編纂所蔵「足利義教像」の表具と共裂の描繪裂などが含まれる。また、更紗裂が多いことも特色の一つである。		
購入金額	4,400,000 円		



16 名称	裂帖「唐倭古織裂集」	品 質	絹など
作者等	裂：中国、日本、インド、東南アジア、ヨーロッパ 装丁：日本	頁 数	1帖
時 代	装丁：昭和26年(1951) 裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦29.3cm 横25.0cm 高8.8cm
作品概要	絹織物生産で有名な桐生新町にあった織屋・吉田家旧蔵の折本仕立の裂帖。元禄10年(1697)までに集められた裂を中心に、江戸期に吉田家にて裂帖が編まれ、それを昭和26年(1951)に旧所有者が仕立て直したものとされる。京都国立博物館所蔵の前田家旧蔵裂に見られる中国産古裂「替り蜀江文様黄緞」の共裂のほか、日本の室町時代頃の製作と思われる紋紗、ヨーロッパの天鵝絨など、多種多様の裂が含まれる。また、近世京都に産した織物も「京織」として貼り込まれており、時代性、地域性ともに幅広く、染織史研究上貴重な資料である。南方よりもたらされた編裂や更紗、琉球の裂、紙布や西欧に産する裂などの希少な作例が多く含まれている。		
購入金額	4,400,000 円		



17 名称	革帖	品 質	革
作者等	染韋：日本、ヨーロッパ 装丁：日本	頁 数	1帖
時 代	染韋：江戸-大正時代（一部欧州製を含む） 装丁：昭和時代初期 20世紀 染韋：18-20世紀	寸 法 等	縦27.4cm 横20.0cm 高8.5cm
作品概要	染韋裂のみを集めた珍しい折本仕立の裂帖。技法や模様の異なる様々な種類の染韋が貼り込まれている。各革片の右肩にはそれぞれの名称が記されるほか、いくつかは伝来や技法、職人についても記載があり、革工芸史研究の上でも貴重な資料である。所収の染韋裂には、煙草入れや煙管入れ、紙入れ、仕覆に用いられたと思われるもの他、天平革と呼ばれる江戸期の画韋をはじめとした甲冑用の染韋、更紗の模様を写した更紗革、舶来の金唐革などが含まれる。蝦蟇口などに成形されていたと思われる和製の印伝や合成染料で染められた明治期大正期の染韋など新しい技法によるものも含まれており、近世・近代の染韋文化の多様さをうかがい知ることができる手鑑である。		
購入金額	4,400,000 円		



18 名称	西洋更紗裂	品質	木綿（銅版捺染/銅版捺染/蠟防染）
作者等	フランス、イギリス、イタリア	員数	26枚
時代	18世紀後半-19世紀	寸法等	1: 2枚 各 縦24.0cm 横28.0cm 14: 縦48.0cm 横40.0cm 2: 縦40.0cm 横40.0cm 15: 縦45.0cm 横26.0cm 3: 縦57.0cm 横47.0cm 16: 縦73.0cm 横39.0cm 4: 縦40.0cm 横117.0cm 17: 縦54.0cm 横36.0cm 5: 縦31.0cm 横36.0cm 18: 縦57.0cm 横33.0cm 6: 縦24.0cm 横118.0cm 19: 縦55.0cm 横60.0cm 7: 縦50.0cm 横35.0cm 20: 縦80.0cm 横27.0cm 8: 縦48.0cm 横36.0cm 21: 縦34.0cm 横44.0cm 9: 縦67.5cm 横61.0cm 22: 縦49.0cm 横81.5cm 10: 縦57.0cm 横33.0cm 23: 縦59.0cm 横37.0cm 11: 縦32.0cm 横320.0cm 24: 縦30.0cm 横55.0cm 12: 縦42.0cm 横33.0cm 25: 縦27.0cm 横89.0cm 13: 縦45.0cm 横126.0cm
作品概要	本コレクションは、フランス染織史の研究者Elinor Merrell氏(1895-1993)が1940年代に蒐集した西洋更紗である。フランスの初期の木版更紗、ジュイ、ノルマンディー、ナント、ミュールーズなど各地の銅版更紗、さらにイギリスからアメリカに導入された染色技術を物語る蠟防染の作例などを含んでいる。銅版更紗の多くはヨーロッパにおける神話や物語、格言を題材にした内容が表わされている。その染織技法からは、エッチング銅版による銅版捺染法、銅版ローラーによるシリンダー捺染法、紡績機械や織布機械による木綿の大量生産など、インド更紗を凌駕する技術革新を背景に見ることができる。本コレクションは当時のヨーロッパの好みを示すのみならず、世界交易史の視点からみれば、捺染技術伝播、近代産業の歴史を考える上で貴重な資料である。		
購入金額	2,860,000 円		

一段目 左端から（1～4）、二段目 左端から（5～10）、三段目 左端から（11～17）、四段目 左端から（18～25）



<考古> (9件)

19 名称	深鉢形土器	品質	土製
作者等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員数	1口
時代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸法等	直径38.3cm 高55.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部には粘土紐貼り付けによる幾何学的な文様と透かし、胴部には羽状文と呼ばれる鳥の羽状の縄文が特徴的である。口縁部の4つの突起の文様は、人面風に見える。この時期の日本列島では、新潟の火焰型土器をはじめとする立体感ある装飾を持つ土器が各地で流行したが、本品はその地域性を知る上で貴重である。		
購入金額	3,300,000 円		



20 名称	台付浅鉢形土器	品質	土製
作者等	青森県三戸郡五戸町蛭川出土	員数	1口
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	直径19.3cm 高22.7cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。粘土紐貼付によるS字状の入組文様と、脚部に施された対向するV字・逆V字状の1対の透かしが大変美しい。脚部には、縄文時代の補修痕である複数の穿孔が見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		
購入金額	4,400,000 円		



21 名称	鐸型土製品	品質	土製
作者等	青森県むつ市田部品ノ木	員数	10個
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	1: 高7.5cm 2: 直径5.2cm 高7.1cm 3: 短軸径5.2cm 長軸径3.7cm 高6.0cm 4: 直径3.6cm 高5.8cm 5: 短軸径2.0cm 長軸径4.3cm 高5.5cm 6: 短軸径3.3cm 長軸径4.0cm 高5.4cm 7: 短軸径3.5cm 長軸径3.8cm 高5.3cm 8: 直径4.0cm 高5.0cm 9: 縦6.3cm 横4.3cm 高3.4cm 10: 縦4.8cm 横4.1cm 高3.5cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する釣鐘形の祭祀具。釣鐘形のものだけでなく、希少な靴形のものも見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。一方で、祭祀具の中には、本品のように他地域に広がらなかった地域性の強いものも見られる。		
購入金額	2,200,000 円		

左端から (1~10)



22 名称	注口土器	品質	土製
作者等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員数	1口
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	直径17.8cm 高18.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。注口を動物の口に見立て、眼、耳、四脚を配し容器全体で動物を模し、さらに半肉彫技法による縦方向の弧状文、耳、四脚で編籠を模しているように見えるなど、縄文人の造形力の高さを示す品である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		
購入金額	3,300,000 円		



23 名称	壺形土器	品質	土製
作者等	伝岩手県出土	員数	1口
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	直径24.0cm 高17.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。算盤玉形の胴部をなし、半肉彫技法による環状文が印象的な土器である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		
購入金額	2,200,000 円		



24 名称	壺形土器	品質	土製
作者等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員数	1口
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	直径32.5cm 高43.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北部から北海道西部にかけて出土する土器。口縁部の3つの橋状把手と胴部の沈線によるS字状入組文が特徴的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		
購入金額	3,850,000 円		



25 名称	深鉢形土器	品質	土製
作者等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員数	1口
時代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸法等	直径28.0cm 高35.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北部から北海道西部にかけて出土する土器。輪花のような9単位の波状口縁と半肉彫技法によるS字状入組文が印象的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		
購入金額	4,950,000 円		



26 名称	岩偶	品質	石製（白色軟質岩製）
作者等	青森県十和田市滝沢明戸出土	員数	1軀
時代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸法等	縦9.8cm 横12.0cm 厚4.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩偶で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。遮光器風の眼部、豊かな乳房、全面に施された双頭渦文が特徴的である。下半身と手先が欠失する。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		
購入金額	2,970,000 円		



27 名称	岩版	品質	石製（白色軟質岩製）
作者等	秋田県北秋田市脇神高森岱出土	員数	1個
時代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸法等	縦10.3cm 横6.4cm 厚2.2cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩版で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。正中線と人面の表現が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		
購入金額	2,530,000 円		



<歴史資料> (3件)

28 名称	豊臣秀吉領知宛行状	品 質	紙本墨書
作者等		員 数	1幅
時 代	安土桃山時代・天正15年(1587)	寸 法 等	表装：縦106.5cm 横65.0cm 軸長70.0cm 本紙：縦22.8cm 横62.5cm
作品概要	本品は天正15年(1587)6月15日付、宗義調・宗義智宛に発給された豊臣秀吉の領知宛行状である。同年5月に九州平定を終え、管崎に在陣する秀吉のもとに、6月に義調と義智が「父子」と称して伺候した。ここで宗氏の秀吉への服属が確定し、本品によって、対馬一国が安堵されたのであった。本品と同時にもう一通発給された判物には、朝鮮への出兵について記されていることはよく知られている。本品は江戸時代に対馬藩主の「奥御判物長持」で保管されていたが、大正15年(1926)に宗伯爵家は宗家に伝わった秀吉関係文書や徳川家康関係文書を朝鮮総督府朝鮮史編修会にした中に本品が含まれていたと考えられる。豊臣秀吉の九州平定後、対馬の宗氏を従え、朝鮮出兵へと進み始める段階の一次史料として重要なものである。		
購入金額	2,700,000 円		



29 名称	カルディム『日本殉教精華』	品 質	紙本活版(金属活字)印刷、ヴェラム装
作者等	アントニオ・フランシスコ・カルディム編	員 数	1冊
時 代	ローマ 1646年刊	寸 法 等	縦19.8cm 横15.2cm 高4.4cm
作品概要	ポルトガル人イエズス会士で日本管区長であったカルディムが編纂した、16世紀から17世紀の日本におけるキリスト教徒の殉教録。本書は3部構成となっている。第1部は日本で宣教活動を行ったヨーロッパ人や日本人イエズス会士・会員、イエズス会を支援した大村純忠、大友宗麟、高山右近の3名のキリシタン大名、計87名の略伝と銅版画が掲載される。第2部は1557年から1640年まで、日本で殉教した人物の名簿。第3部は日本との交易再開を求めるため、1640年に長崎に来航したマカオ使節団が処刑された出来事に関する記録である。殉教録という性格上、本書には脚色された記述もあるが、一方で宣教師や日本人イエズス会士たちの容貌を視覚的に伝える。また、第3部については、状況を詳細に記す史料はオランダ語史料を除けばほとんどなく、日本・マカオ(ポルトガル)関係史を研究する上で重要な資料である。		
購入金額	4,551,250 円		



30 名称	モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行』	品 質	紙本活版(金属活字)印刷、革装
作者等	アルノルドゥス・モンタヌス著	員 数	1冊
時 代	アムステルダム 1669年刊	寸 法 等	縦31.2cm 横19.9cm 高5.9cm
作品概要	オランダ出身のカルヴァン派宣教師で歴史学者のモンタヌスの著作。モンタヌスは来日経験がないものの、ポルトガルやスペインのカトリック宣教師の報告書をはじめ、1650-60年代のオランダ東インド会社職員による複数の江戸参府日記を編纂し本書を著した。銅版木の挿図が豊富で、長崎・江戸の往復の道程に沿った視覚的な叙述を可能にしており、読者に臨場感を与えている。これら挿図は、商館員のスケッチをもとに、デフォルメしたものである。「鎖国」後、ヨーロッパにもたらされる日本情報は限定的になったが、本書はエンゲルベルト・ケンペル『日本誌』が登場する以前のヨーロッパにおける代表的な日本に関する著作と位置付けられる。		
購入金額	2,200,000 円		

